





時代は中世のヨーロッパ。
電車や自動車はもちろん、テレビもスマホも無い時代。
人々は互いに協力し合い、一方では争いを繰り返す毎日だった。

こんな時代の職業と言えば、ほとんどが農民と商人。
そして、一握りの限られた人、ほんの一部の人間だけが兵士。

この時代において、兵士という存在は特別だった。
国に雇われ、人々の暮らしを守り、治安を維持する。
給料は高く憧れの職業でもある一方その責務は重く、選ばれるためには並外れた力と覚悟が必要である。



この物語は、そんな治安維持を任された兵士にまつわる物語である。日々厳しい訓練に励み、自己研鑽に勤しみ、お国のために汗を流す。そして、国家繁栄のために健康で優秀な子孫を残す。これこそが、立派な兵士としての務めなのだ。



体験版のためスキップします



いくら優れた戦士とはいえ、単身で活動している兵士は少ない。
兵士を補助するためのパートナーを雇っている者がほとんどだ。
ひとえにパートナーといってもその役割は多種多様。
雇うパートナーは力自慢の屈強な男から、料理の得意な女性まで様々だ。
パートナーの選定は、兵士に一任される。



レイナ。

彼女はクロードに使える、パートナーの魔法使いだ。

レイナとクロードは小さい頃から近所に住んでいて仲が良く、しょっちゅう一緒に遊んでいた。

いわゆる、幼馴染というやつだ。

大きくなるにつれてクロードの兵士としての能力は大きく花を開き、気づけば国防を担う兵士になっていた。

クロードが兵士になりたての頃、彼とレイナは約束したのだ。

「俺は国防を担う兵士を目指す。そうなったら、お前は俺のパートナーになってくれ。」

クロードもレイナも口には出さなかったが、お互い分かっていた。

自分達は気の合う仲であり、異性としても強く惹かれ合っていることを……。

そして、いつかは一緒になって……。

レイナはその日から魔法使いを目指し、必死に訓練を積んだ。

多少の事ではへこたれない。

「クロードが待っている、クロードのために役に立つんだ。」

そう言い聞かせながら自分自身を鼓舞し、必死に訓練に励んだ。

そして今ではクロードという一兵士を支える、立派な魔法使いになったのである。



■■■■■■■■■■

体験版のためスキップします

■■■■■■■■■■



「それじゃあ、行ってくるねえ！！」

「おう、頼んだよ。」

バタン……

静かな森に響く、乾いた音。

装備を整え、真剣な眼差しで家を出るレイナ。

兵士には悪事を働いた者たちの制圧、モンスターの退治など、様々な仕事がある。

その一つに、村の警護というものがある。

だが、今では兵士がパトロールするような事はあまり無い。

というのも、村のパトロールは比較的難易度の低い仕事とされているからだ。

村のパトロールは新人の兵士かパートナーがやるもの、最近ではそう相場が決まっている。

今日はレイナが一人で、村の周りを囲んでいる森にパトロールに出かける日。

モンスターや盗賊に出くわすことは滅多に無いが、ゼロでは無い。
が、出会っても、相手は村の周りをうろついているような、低級のモンスターばかり。
レイナひとりでも十分に戦える。

それに、他の兵士のパートナーに負けている訳にもいかない。
自分が怖がったりしては、クロードにも迷惑がかかるし、顔が立たない。

「森のパトロールぐらい、私がしっかりと勤め上げてやるわっ！！」

この気持ちが、レイナが真剣に仕事を行う強い原動力となっているのだ。



パトロールを始めて1時間ぐらい経っただろうか。

「バシシシシシッイイイ！！！」

今までの静寂を引き裂くように、ドスの効いた重低音がこだまする。



カミナリ？

いや、こんな晴天にカミナリが落ちる訳がない。

モンスター？

こんな強烈な稲妻のようなものを出せるモンスターなんていたかしら？

足元には大きく黒ずんだ跡が残っている。

偶然ではない。

間違いなく自分を狙った攻撃だ。

「どこっ！？どこなの！？出てきなさいっ！！」

その姿からは想像できないほど、相手を威圧する大きな声で叫ぶレイナ。
辺りには木や草が生い茂り、敵の姿は確認できない。

「隠れてないで出てきなさいっ！！私が相手になるわよっ！！」

キリっとした目で辺りを見渡すレイナ。

カサッカサッカサッ……

何かが歩いてくるような音……。

モンスター？いや、人間か？



「フフフ……」

レイナの前に現れた、一人の老婆風の女。
その風貌から、レイナと同じ魔法使いと思われる。

「だ、誰よあなたっ！！この村の人かしらっ！？」

正直、少し面食らった。

そう、いつも出くわすのは見るからに弱そうなモンスターばかり。

こんな人間、しかもそれなりの見た目な魔法使いとエンカウントするなんて初めてだからだ。

「さっきの攻撃、あなたの仕業よね？いったい何してくれてんのよっ！！」

「あらあらレイナさん、今日もそんなおっきなオッパイを揺らして、香気にパトロールかしら？」

どこか憎たらしい笑みを浮かべながら、見下すように語りかける老婆。
私の名前は知っているようだ。

「お、おっきいオッパイなんて関係ないでしょっ！！」
「あんな激しい攻撃をしてきて、一体何のつもりよっ！！」

負ける訳には行かない。引き下がる訳には行かない。
悟られぬよう恐怖心を抑えながら、威勢を張るレイナ。

体験版のためスキップします



ドクン……

「えっ……！？」

心臓の鼓動のような脈動が、レイナの両胸を走る。

動悸……？

いや、違う……

心臓の鼓動とは別のペースで、ドクンドクンって脈動して……

おまけに脈動する度に、胸の奥から熱くて気持ち良い感覚がこみ上げてくる。

「な、何……こ、この感覚……」

初めての感覚に戸惑うレイナ。

「う、うううう……」

思わず声を上げてしまったレイナ。

快感とは裏腹に、ものすごい快樂の後に襲ってくる、強烈な脱力感……
こ、これは……

「ま、まさか……え、エナジードレイン……！？」

エナジードレイン。

そう、この老婆はレイナから魔力、いや生命力を吸い取ろうとしているのだ。

「は、離しなさいよお……」

抵抗を試みるも、ドクンの後に襲ってくる強烈な快樂で思うように力が入らない。

ドクン……ドクン……ドクン……

ドクン……ドクン……ドクン……

ドクン……ドクン……ドクン……

レイナの体から力が抜けていく。

老婆のシワシワな両手を伝って、レイナの豊満な両胸の奥底から生命の灯を吸い上げていく。

「若い魔力は美しいねえ……なんて密度の高い上質な魔力なんじゃ。」
老婆の掠れた声が耳に響く。

レイナは齒を食いしぼり、快樂で心が折れてしまいそうになるのを必死にこらえる。

駄目……気持ち良くて……どうでも良くなってくる……

で……でも……負けられない。

……こ、ここで倒れたりなんかしたら、彼に迷惑をかけてしまう……

そういった思いだけが、レイナの意識を辛うじて繋ぎ止める。

「あ……あん……わ、わたしは……ん、んんっう……あ、あなたに……負けない！」

力を振り絞り、両胸の拘束を解こうとするレイナ。

が、老婆はさらに憎たらしく口角を上げ、ニヤリと笑う。

「まだまだエナジーが残っているようね……」

「吸収のスピードを強めてあげましょうか。」

そう言うと、老婆の手の力が一層強くなる。

ギュ……

「いやあああああああああんんんんううう！！！！」

ドクンドクンドクン……

ドクンドクンドクン……

「あんっ、あんっ、あんっ、あんっ、あんっ、あんっ……」

先ほどとは比べ物にならないほどのスピードで脈動が始まる。

気持ち良すぎて耐えられない快感に、脈動の度に声を出さずにはいられなくなるレイナ。

「アハハハハ！！滑稽滑稽！！」

「一流の魔法使いも所詮快樂には逆らえないのね。」

「あんっ、あんっ、あんっ、ち、ちがあ、あ、あんっ、あんっ、あんっ……」

ドクンドクンドクン……

ドクンドクンドクン……

辛うじて言い返すレイナ。

だが、もはや言葉にならない。

「ほら、レイナちゃん、このままやられちゃっても良いの？」

「自分のそのおっきなお胸、よく見て見なさいよ？」

そう言われ、慌てて自分の胸を確認するレイナ。



「あんっ、あんっ、えっ！？……ふ、服が……」

今まで快樂のあまり気が付かなかった。
いつの間にか、レイナの服が完全に消失している。

「わ、私の服が……あんっ……な、なんで……んんう……どうして……」

ドクンドクンドクン……

ドクンドクンドクン……

確かに身に着けていた魔法使いの服。
それが跡形もなく消え去り、完全な生まれたままの姿になっているレイナ。

「オホホホホ ♪」

「この方がエナジードレインの効果は抜群に上がるのよ？」

「服の上から吸い取るより、直に吸い取った方が沢山吸い取れるからね。」

「あんっ、あんっ……く……そ、そんなぁ……あんっ……」

ドクン……ドクン……ドクン……

ドクン……ドクン……ドクン……

ドクン……ドクン……ドクン……

全裸の状態で老婆に両胸を鷲掴みされたまま、その体に蓄えた魔力があつという間に流れ出していく。

「あんっ！！…あんっ！！…あんっ！！…あんっ！！…あんっ！！…あんっ！！…」

快楽を与えてくる老婆の両手に身を任せ、胸を突き出して喘ぎ声を上げるレイナ。

が、次第に正気を取り戻していくレイナ。

確かに強烈な快楽と脱力感……

だが、一定のリズムを刻んでいる。

このリズムの隙、快楽と脱力感が弱まる一瞬の隙を突き、全力で抵抗すれば……

そう思い、チャンスを伺おうとした瞬間――

■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

体験版はここまでになります。

続きは製品版にてお楽しみください。

■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

この度はダウンロードいただき誠にありがとうございます。

皆様のおかげでサークル活動が継続できております。本当にありがとうございます。

今後とも「吸収ド레인」をよろしくお願いいたします。

乳と若さを吸い尽くされ貧乳ババアにされちゃう魔法少女のお話

イラスト基本絵：miya;bit様

イラスト差分絵：miya;bit様、master

基本シナリオ：master

文章：いぬごや様、master

制作：吸収ド레인

<https://kyusyudrain.com/>